

東京すくわくプログラム7

テーマ 季節を感じる 「鬼のお面作り」

対象 5 歳児

日時 1月15日から1月31日

2月の節分に向けて、5歳児がお面を作りました。節分には、鬼が来るので、その鬼を怖がらせるような鬼を作ろう。と強そうな鬼を作ることになりました。日本の節句の一つである節分を、どのように楽しむのでしょうか。1日では出来上がらない工程のたくさんあるお面作り。お面をつける日を楽しみにしながら、どんなお面にしようかと考えながら約半月かかって作りました。

子どもの活動

- ・顔と同じくらいの大きさに膨らませた風船に、コピー紙をちぎったものを水ノリで張り付けます。乾いたら、その上にちぎった新聞紙、最後にコピー紙の白を張るようにして、3層の紙を風船につけます。乾いたら、風船を割り、お面の土台の形をカッターで切り、整えます。自分で選んだ好きな色の絵の具をお面に塗ります。

- ・丸く切った金色の色紙を目の位置に貼ります。色紙で、口と鼻を付けます。最後に角を作ります。色画用紙を円錐形に作りそれをボンドタッチで着けて、マジックで模様を描きました。お面に厚紙を貼り付け、輪ゴムをつけて、顔にかぶれるようにします。

子どもの様子

- ・風船に紙を貼る過程で、まず、イチゴくらいの大きさにコピー紙をちぎることが難しかったようです。

- ・コピー紙と新聞紙を3層に貼り終わると、いよいよお面らしくなってきました。はじめは「どうなるの?」とこの作業がどのようにつながるのかわかりにくかった子ども達ですが、自分の中の鬼のイメージに合った色を絵具で塗り、鬼の

顔を仕上げていく過程では、それぞれの子どものお面への思いを作品に表現されていました。面の形が出来上がってくると、「わーすごい」「目を開けないと」など子どもから声が聞こえてきました。

- ・鬼を怖がらせる鬼の面を作ることができました。節分豆まき当日、お面をつけて鬼になることをとても楽しみにしていた子どもの姿がありました。

活動の振り返り

工程が多かったのですが、だんだんお面の形が出来上がってくると「怖い鬼を作ろう」という思いからアイデアが広がり、目や口、牙や角を作ってお面にくっつけていました。節分の行事に向けて楽しみにする様子が見られました。



